

# 中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所  
地域教育支援スタッフ

no  
**6**

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

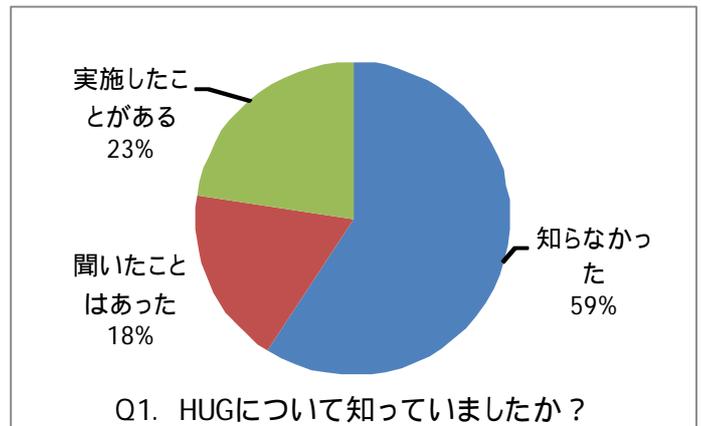
## 平成27年度 第2回 峡中地区・峡北地区 合同地域教育推進連絡協議会



2月23日(火)に、北巨摩合同庁舎で第2回峡中地区・峡北地区合同地域教育推進連絡協議会を開催しました。当日は研修会として、山梨県総務部防災危機管理課の吹野健彦氏を指導者として招き、「防災の心構え - 避難所運営ゲーム(HUG)を通して - 」と題して、ワークショップを開きました。

80名の峡中地区、峡北地区からの参加者たちは次々と読み上げられるカードに悪戦苦闘しながらも、避難者たちにとって最善となる方法を模索していました。

終了後に参加者を対象にHUGと災害についてのア



ンケートを実施しました。

問1 HUGの経験について

参加者80名のうち丁度半数の40名が教員でした。研修会でHUGを実施している市町教委も聞いていましたが、経験者は1/4以下でした。

問2 HUGの経験者について、ワークショップを受けた後何らかの行動をおこしたかについて質問してみました。結果として過半数が、そのまま何もしていない状況でした。理由は、忙しい(3)、考えてはいる(1)、避難所

### 避難所運営ゲーム(HUG)とは？(静岡県HPより)

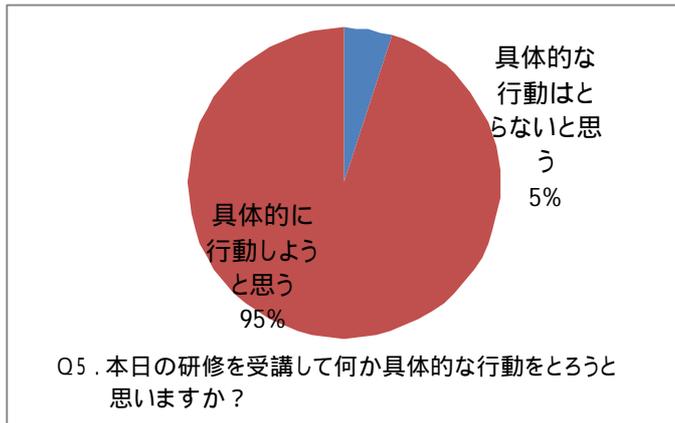
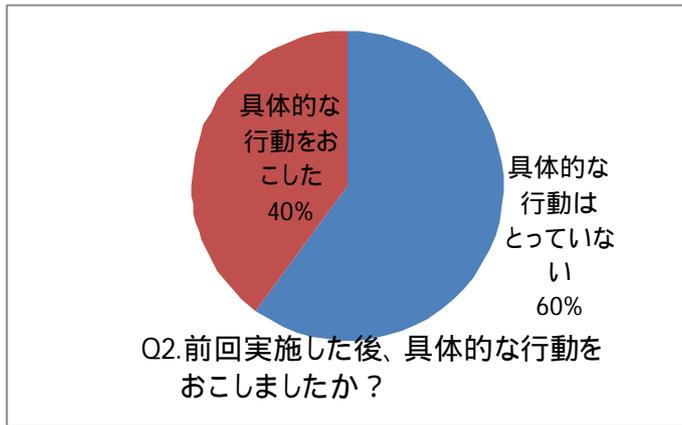
もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。

避難所HUGは、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。

避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

HUGは、H(hinanzo避難所)、U(unei運営)、G(gameゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けました。



運営に関わる職務にない(1)との回答でした。

問5 当日の研修会終了後に、具体的に何か行動をとろうと思うかどうかを尋ねてみました。その結果参加者の95%が何らかの行動をおこすと回答していました。

具体的には、

- ・職場等でHUGを紹介し、知識を共有する(9)
- ・家庭、地域、行政の決めごとを確認する(9)
- ・物品の置き場所などの決めごとを周知する(3)
- ・危機管理マニュアルの確認(3)
- ・生徒にHUGを体験させてみる(2)
- ・防災訓練に生かす
- ・仮設トイレの設置場所の確認・用意
- ・緊急時の物品を確認する
- ・リーダーになれるようにスキルアップする

などの回答が得られました。

参加者のそれぞれから、災害が起きる前に具体的な対策をとっておこうという声が聞かれたことは主催者としても喜ばしい限りではありますが、アンケートの回答では、実際に行動に移すのは4割に過ぎないという結果でした。ぜひ皆さんも、「忙しいから」と言わず、できることから準備をしておいていただければと思います。

## ふりかえりカードの内容から

### 感想

- ・最初が肝心
- ・一度にたくさんの人をさばくのは至難の業
- ・学校の施設は災害が起きたときの対応の施設になっていない
- ・体育館だけでは収まらない
- ・認知症や身体に問題のある方が多かった
- ・外国人も来るんだ
- ・わがままな者が多い
- ・救援物資の置き場所の確保が難しい
- ・避難所に入らず、食事だけ取りに来る人の対応が大変
- ・グラウンドもすぐに車でいっぱいになる
- ・校内の情報に詳しい人が居ると作業がはかどる
- ・体育館や教室のレイアウトを決めておかないと配置ができない

### 気づいたこと

- ・指揮系統を確立しておく
- ・協力できる方を上手く使う
- ・受付が必要
- ・必ず変更が生じることをあらかじめ伝えておく
- ・避難者からの情報収集が困難
- ・避難している人の情報管理が難しい
- ・避難者以外の、捜索者、食料を求める人、旅行者などの対応は難しい
- ・早期の授業再開を妨げないような配慮が必要である
- ・ペットの対応が難しかった
- ・医者、看護師などの確保
- ・共有スペースの確保が必要(本部、受付、物資置き場、イノメーションボード)
- ・説明の必要がないように掲示をしていく
- ・状況をどんどん記録する

### 準備しておくべきこと

- ・模造紙を用意して受付簿を作る
- ・ゴミ置き場を決める
- ・ボランティア用本部を用意する
- ・学校の開放できる教室を日頃から一般に周知しておく
- ・レイアウトを作り、自治会に周知しておく
- ・看板など事前に用意できる物を用意する
- ・避難者カードを用意しておく
- ・どの部屋にどんな人を入れるか大まかな基準を作っておく
- ・各部屋の収容人数を確認しておく
- ・給水所、炊き出し所、仮設トイレの設置計画を考えておく



平成28年2月6日に、山梨大学で第28回教育フォーラムが開催されました。平成20年より学習指導要領(中学理科)に加わった「放射線の性質と利用」の教育について東京学芸大学理科教育学教室の鎌田正裕教授がHATO放射線教育プロジェクトに触れながら講演をされました。HATOプロジェクトとは北海道教育・愛知教育・東京学芸・大阪教育の四大学が、教員養成教育が共通して抱える諸課題に対して、各大学の強みを生かしつつ教員養成機能の強化・充実を図ることを目的とした連携・協力プロジェクトです。

### なぜ今「放射線教育」なのか

#### ・福島第一原子力発電所の事故による影響

原子力を取り巻く諸問題に対して、「私たちはどう考え、何をしたら良いのか」を考えるための基礎知識を与える必要がある。それは全ての人々にとって必要な知識であるから、義務教育段階で教えられるべきことである。

#### ・中学校学習指導要領の改訂

中学3年生「(7)科学技術と人間(解説)」の中で、「原子力発電ではウランなどの核燃料からエネルギーを取り出していること、核燃料は放射線を出していることや放射線は自然界にも存在すること、放射線は透過性を持ち、医療や製造業などで利用されていることなどにも触れる」とされている。

#### ・教師が教えられた経験を持たない

学習指導要領に新たに取り入れられたものだから、教師(含大学生)が教えられた経験を持たず、効果的な授業を行い難い。

### HATO放射線教育プロジェクトの実践

#### ・教育プログラム(授業パッケージ)の作成

4大学、ひいては全ての大学で使えるように、中学校(高等学校)の履修内容との関連を明記した、90分を基本単位とする大学生向け授業資料を作成した。

#### ・簡易測定器を使った自然放射線の測定

測定器の価格が下がり、¥4,000~¥140,000で購入することが可能である。自然界では地中からの自然放射線が大きく影響するので、トンネルなどでは線量が上がる。

#### ・安全かつ安心な実験用線源

測定で、自然界にも放射線は存在すること、線量は常に一定ではないことは教えることができる。しかし線量の高いものを測定する実験は難しい。その理由は、放射性物質の取り扱いに法律で規制がある、放射性物質が高価である、放射線に対して過度の不安を持つ人(保護者)が多い、の3つがあげられる。



そこで、日本人に受け入れられやすい「温泉」が利用できる。特に増富ラジウム温泉はラドン(Rn)の含有量が日本でも5本の指に入る優秀な温泉である。

### 放射線教育を通して教えたこと

放射線教育の目標は次の2つである。

- ・放射線や原子力についての知識の習得
- ・リスクに対する、意思決定能力の育成

放射線は「幽霊」ではない。正しい知識を持つことが重要である。

#### 幽霊の正体見たり枯れ尾花

恐怖心や疑いの気持ちがあると、何でもないものまで恐ろしいものに見えることのたとえ。また、恐ろしいと思っていたものも、正体を知ると何でもなくなるといったことのたとえ。

放射線についても正しい知識を持てば盲目的な恐れは生まれてこない。



### Questions & Answers

#### ・放射線の危険性の教え方について

- どこから危険とは一概には言えないので、危険・安全の尺度を考えさせたい。風呂の温度も41は危険で40は安全と言うことは無いはずだ。放射線の量を考えさせてゆることが手掛かりになると考えている。また、温泉のところでも触れたが、「人工物は危険で天然物は安全」という先入観を持つ人も多い。

#### ・福島県ではどのように教えられているのか？

- 個々の情報は入ってきているが、その件の調査研究はHATOプロジェクトでは扱っていないので回答できない。

#### ・放射線に対してネガティブな印象をどうするか？

- 放射線に対する印象をポジティブなものにすることが放射線教育の目的ではない。知識を与えて盲目的に嫌っているものを理解できるようになる生徒がいることは確かだが、生徒の印象を操作することが目的なのではない。

## 「学力向上」は“みんなが生きていく”ために

中北教育事務所 地域学力向上推進幹 内藤伊久磨

30年前、携帯電話を持っている人などほとんどいませんでした。それが、今では年齢を問わず、当たり前のように携帯・スマホを使いこなすようになってきました。通信手段一つとってもこの30年間で大きく変わりましたが、これからの30年でさらに加速度的に変わっていくことでしょう。既に話題になっている開発途上の自動運転車や介護ロボットなどの実用化への動きや、さらには自動化・IT化が進むにつれ、社会全般も様変わりしていくことと思います。

将来を見据えたとき、これからの教育には何が求められるのでしょうか？

それは、やっぱり「みんなが生きていくための社会づくり」、その担い手を育てることだと思います。今後ますます、自動化・IT化の技術開発が進み、産業構造も変化していくでしょう。同時に少子化・高齢化も進み、人々の生活様式や常識も少しずつ変わっていき、今以上に多様な価値観が生まれることでしょう。互いの立場の違い(例 価値観・文化・国籍・年齢など)を認めた上で、互いに利益を享受し、みんなが共に生きる社会をめざすことがますます必要とされます。

今、学校では学力向上に取り組んでいます。変化の激しい時代を生き抜き、新しいコト・モノを創り出す力を育てることが求められているからです。「読み・書き・計算」などの数値化できる力に注目が集まっているのは周知の通りです。それと同時に、「望ましい生活習慣の定着」「自信を持つこと」「思いやり」「我慢強さ」「協力・コミュニケーション能力」「きまりを守る」など、学校では数値化できない力の育成にも力を注いでいます。これらの力は、学力向上を下支えする意味でもますます重要となっています。数値化できる力も数値化できない力も、学校教育では車の両輪であり、どちらも子どもの成長のためには不可欠な力です。

将来に向かっての夢や希望を見つけること、あるいは、周りとの人間関係を築いていくこと、こういった力を育むためには学校での活動ばかりではなく、地域の力に期待するところもとても大きいです。学校や地域で学んだ力を「将来の自分のため」と「みんなが生きていくため」に活用できる、そんな子ども達を育てていくことが大事なのだと思います。

### 来年度も実施します！

「ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座」  
「子育て支援リーダー・実力アップ講座」

県では、子育て支援者のスキルアップをねらいとした講座を開設しています。平成28年度も本年度同様に2つの講座、「ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座」および「子育て支援リーダー実力アップ講座」を企画しています。県内で活躍中の多数の子育て支援者、これから子育て支援をしようと考えている方の応募をお待ちしております。平成28年度の



受講生募集は28年4月から実施する予定です。ぜひ県のHPを参照して、申し込んでいただきたいと思います。

### 父親の子育て参加支援事業講演会

絵本らいぶ 百聞は一見にしかず

～絵本を通してもっと子育てを楽しく～

峡北地区保育所保護者連合会による、父親の子育て参加支援事業講演会が1月17日(日)に須玉ふれあい館ホールで開催されました。当日はパパ's絵本プロジェクト伊那の方々を講師にお招きし、「絵本らいぶ 百聞は一見に如かず～絵本を通してもっと子育てを楽しく～」と題し、パフォーマンスが行われました。「通常の講演会ではなく、楽しく参加できる会



にしたい。」という主催者のねらいどおり、当日は子どもたち71名とその保護者の方々が集まり、読み聞かせのポイントを体感できるパフォーマンスに目を輝かせていました。

平成27年度 『中北.com』 6

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援担当  
飯田野崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>